

イラストコーナー

イラストは
たてに描いてね



I♡DORA さん



入江 彩華 さん



福岡 夏妃 さん

▼5歳ごろの写真(右)。御船川左岸から五庵橋を背景に、1歳の弟(左)、お隣のお姉さん(中)と撮った一枚です。



このコーナーでは、みなさんからの便りをお待ちしています。
どんなことでもかまいません。どしどしお送りください。広報クイズの答えもお忘れなく。

《あて先》〒861-3296 御船町役場「おたより」係 ※住所を書かなくても届きます。

《Eメールアドレス》 kanri@town.mifune.lg.jp

※匿名希望の場合は、氏名の横にその旨を明記してください。ペンネームでもかまいません。

まちへのラブレター

みなさんからの便りをご紹介します。

最近、ニュースで御船高校のロボコンや御船中学校のおにぎりでのギネス記録を見ました。御船の若い力が頑張っているのは大変うれしいことです。私も力をもらえます。これからもどんどん若い人たちが活躍してくれることを期待しています。

(滝川・Nさん)

若い人たちの明るいニュースには元気をもらえますね。目標を持つことや何かに一生懸命になれることは素晴らしいことです。広報みふねでは、これからも頑張っている人をどんどん紹介して、応援していきたいと考えています。

(広報担当)

御船 へ引越して来て十六年になります。酒造りの町が白壁が赤レンガ煙突が今でも残っていたらと残念に思います。歴史を学ばせていただきました。

(高木・Kさん)

白壁の酒蔵懐かしかったです。

(小坂・Yさん)

2か月に渡って連載した特集「白壁」。特集としたきっかけは、今年3月に開催された「原酒祭り」でした。取材の中で感じた「酒造のまち」への思い。もちろん、酒造りや白壁の町並みは御船が誇る歴史ですが、一度途絶えた伝統を復活させた酒プロジェクトの情熱も誇ります。紙面ではすべて掲載することができませんでしたが、多くの壁を乗り越えて、「水の鼓動」は復活しています。そこで皆さんに提案します。御船が誇る地元の酒を人や親せきに、御船の香りとして届けてみてはどうでしょうか。町内の酒屋など1店舗でお買い求めできます。目印は、「水の鼓動」と書かれたのぼり旗で。

(広報担当)

先生の青春昔話

町内に勤務する先生に、子どものころの思い出を話してもらおうコーナーです。

わたしの心のルーツ「御船川」



高木保育園 長野 英子 園長
(御船町滝川出身・52歳)

小さいころは、「御船川」も大きな川でした。どこから階段を下りて、川原に出ることができ、川で洗濯をする母たちの近くで、よく遊んだものです。少し大きくなると、川が、夏休みの水泳場でした。五庵橋の少し下流には水泳場があり、母たちの水泳当番は川でした。「お盆に泳ぐと、河童に引かるけんね」と言われていたので、御船川には本当に河童がいるものだと思っていました。その御船川も、わたしが中学3年と高校2年の年の水害で、実家も床上浸水70センチと大暴れ。その後、河川改修が始まり、「白壁」もなくなり、様変わりしていきました。でも、わたしの心の中には、河童の住んでいる水がいつまでも「御船川」と、二つの「白壁の酒蔵」がいつでも浮かんできます。きれいな水と緑の町をみんな大事にして、次代を担う子どもたちが、誇りに思えるような御船町でありたいと思います。

句の一枚



劇や遊戯などお友達と一緒に練習を重ねて迎えた若葉保育園の発表会。大勢のお客さんの前でちょっぴり緊張したけれど、大きな声で発表したり踊ったりと楽しむことができ、会場からは大きな拍手をもらっていました。発表会を終え、またひとまわり成長した園児たちでしょう。

ひとひねり

短歌

「挽きたてよ」友の差し出す籠の中胡瓜と茄子に朝露やどる 甲斐レイ子
筆圧弱き字を書く娘なり二十年を姑と同居の繰り言いわず 金森 英子
追憶はなべていとおし庭先の鈴なり銀本音立てて落つ 北村やヨイ
小半時隣り合せて話し聞く人の人生バスの醍醐味 古閑喜美子
去年までは稲穂みのりし水田は今猪の荒らすまなる 平野 文子
鎌もちて流れし月日幾星霜親の意のまま農に嫁ぎて 藤本 京子
暑さにも耐えて咲きたる彼岸花いさぎよきかなその朽きざわも 正宗タツ子

俳句

御船春菊句会 大坪落子選

初めてにしては上手に瓢の笛 赤星 和子
奔放な人生もよし薦紅葉 黒田 順子
名も知らぬ木の実をそつと手に拾ひ 渡辺 澄江
木には木の秘めたる思ひ山粧ふ さとうともこ
会ひたくて時雨るる朝を出て来たる いつのひろ
柚子を挽ぐ手の先までも香りけり 坂田志美子
瓢の笛吹いて杜の気纏ひけり 丹生 則子

肥後狂句

天狗会

物さし これは自慢の出来る鯛 増永 笑和
明日がある たまには羽目も外ずさんか 坂本 周礼
残り物 みんな私の皮下脂肪 平野 千鶴
大あくび 充実感の徹夜明け 鳥井 蘭
こつばげて こ、が我家でい、にくか 江藤 お竜
止めないで 我慢の末の里帰り 吉田 楽園
さわがしい 一票のためわめき合い 河地 ゆき
残り物 安く手に入りむしやん良か 作田 お光

一般投稿

霏々として草原に雪降る
この草原に流れ過ぎたる時は如何ほど

内村 孝子